

市民意見交換会 議事録

- テーマ:若手農業者と語る勝山市の農業
- 日時:令和6年1月17日(水)午後2時~3時30分
- 会場:ベリ果(荒土町新保21-1)ハウス
- 参加者:高橋 小春(ベリ果)
滝本 紫音(平泉寺のパン屋さん)
吉田 克哉(志 Farm)
小林 誠(田歩)
黒瀬 公雅(きみごろ FARM)
丸山 修治(里芋農家)
松川 大輔(ネギ農家)

○滝本さん 滝本 紫音です。50年ほど前に平泉寺で、祖父が山を切り開いて田んぼを作ったところからうちの農業が始まりました。祖父母が作り上げた田んぼを母が引継いで就農し10年目になります。それに私が3世代目として継いだという感じになっております。私は新しく「平泉寺のパン屋さん」というパン屋を今年の11月から始めました。

○高橋さん 若手農業団体 DINO FARMARS (ディノファーマーズ)の代表もさせていただいております。ベリ果を運営しております高橋 小春と申します。勝山市に来てイチゴを作り始めて3年目になります。イチゴ栽培自体は7年目ですが、勝山市は気候も全然違うので、それに合わせた栽培方法を毎年考えながら、美味しいイチゴをお届けできるように頑張っています。

○黒瀬さん 黒崎 公雅と申します。私は福井園芸カレッジで約2年園芸について勉強をして、勝山の自宅の田んぼにハウスを自分で新しく建てました。ハウスでは主にきゅうり、ミディトマト、冬はほうれん草を、露地で奥越特産のナスを栽培しています。今年で3年目になります。よろしくお願いします。

○吉田さん 志 Farm の吉田 克哉と申します。私は農業を始めて3年、独立して2年目です。主に鹿谷町と荒土町でネギの栽培を行っております。今年から、勝山水菜の栽培を始めました。分からないことも多いですが、幸いにも近くにネギ農家さんが沢山いるので、情報交換をしながら日々検討しながら頑張っております。

○丸山さん 平泉寺の丸山です。主に作っているのが特産の里芋、ハウスの方でミディトマト、そんな感じですか。よろしくお願いします。

○小林さん 田歩(タフ)の小林 誠です。13年前に父が他界して、いやいや田んぼを引き継いでずっといやいや農業をしてきましたが、だんだん面白くなってきて、せっかくこだわって農業をやっているのなら、みんなに届けたいという思いで、キッチンカーとか今色々なことをやっています。

○松川さん 北郷の松川農園の松川といいます。主にやってるのはネギで、基本的には季節野菜を中心に、水菜とかナスとか色々やっています。去年から嫁と2人で、有機栽培をもうちょっと広げたいと思いい、土壌の改良や糠をまいたりとか、新しい作物を作れるような環境を目指して取り組んでいる最中です。よろしくをお願いします。

○水上市長 もともと、勝山の農業は米作りが主流です。勝山の農家の基本的なイメージである、「米を作って収益を上げる」という昔ながらのスタイルとは違うことに挑戦しているということで、そういった人たちが、この後どういう風に行くのかなということを知りたいです。何よりも、そのために、どういうバックアップが必要かということも聞きたいです。

実は、この意見交換会をするにあたり、農林課の担当者に話を聞いた際には、「一番のバックアップはやっぱりこの DINO FARMARS の活動をまず大勢の人に知ってほしいので、そういう意味では広報に掲載することが市としてのバックアップの一つにはなるんじゃないですか」ってことでした。今日は、そういう思いも持ってやっています。

だからここで、何か難しい話を聞いてっていうわけではなく、こういった様子を広報に載せることで、こんな風に農業者の人がやってるんだ、DINO FARMARS っていうのがあるんだとか、分かってもらえればいいのかなと思っています。

そういう意味ではあまり硬くならず、もし要望だとか悩んでいることがあったら言ってもらえればいいと思います。

○水上市長 それではまず、みなさんは作物をどのように最終消費者へ届けていますか。どこに出荷していますか。

○松川さん ヤスサキと生協に出してますね。あとは個人的に道の駅に出しています。

○丸山さん うち基本的には、農協さんに出すのが多いですね。個人で誰かに売るようなことはそういった機会は多くないですね。大野の市場の方には出しています。

○黒瀬さん 私はナスはJAがメインなんですけど、それ以外の野菜に関しては、基本的に直売所です。勝山や大野の市場、サンプラザの中にある太陽市にも出しています。あとはイベントで出店したりしています。

○吉田さん ネギはほぼJAに出してまして、あとは勝山市の店舗に卸させていただいています。あと田歩さんにも。

○水上市長 作ったものをお店に卸すという風な商売のやり方をやっていくのか、それとも直接最終消費者と繋がるのかによって、仕事の仕方が変わると思います。米はもともと全部作ったものを農協に出してただけど、それよりも、直接消費者の方に届けるという方が実は、金額的に上がる場所があります。だから米以外の農業の中でも、複数のそういったことをやっていくというのは大事なかなって、実は高橋さんの仕事の仕方を見てて思いました。

○高橋さん イチゴは、ほとんど店頭で買いに来てくださる一般のお客様に向けた直売がほとんどです。あとは一部勝山市内の洋菓子店や和菓子屋さん、その他飲食店で使っていただいているものがあるので、少量は卸しという形ではあります。

○水上市長 大量に捌こうと思うと、やっぱりどこかのマーケットに卸した方が良いが、メリットデメリットがあって、マーケットに卸せば中間マージンが発生するし、だからといって、直売をしたとして、それが捌けるかどうかというのはなかなか難しいと思います。こういった農業をやっていくときには、大きな問題になってくるのかなと思います。

それから、付加価値をつけるかつかないかということで言えば、滝本さんや高橋さん、小林さんなんかは、まさにその付加価値をつけて売ることによって、そこに利益を積み上げることができるんだけど、野菜そのままだとそこに付加価値をつけにくくなってしまいうので、価格勝負になってしまう可能性がどうしても出てきます。その辺がやっぱり農業をやっている時に、一つの課題になるかなと思ってました。

○水上市長 これからの展望みたいなのがあれば、教えてください。

○吉田さん 路地で畑をやると、どうしても歩く範囲が広くなり、いつか体を壊してしまう可能性があります。真夏やどんな悪天候の中でもやらないといけないうところで、自分はやっぱり、なるべく体の負担のかからないように、はじめに機械投資をしました。

それをいかに効率よく動かせるかっていうのを重きに置いてまして、機械化をどんどん進めていけば、面積が今の倍になっても、管理は自分一人でもできるけれども、出荷がどうしても間に合いません。いうところで、やっぱり出荷要員を増やしていこうかなと考えています。

あとは今、付加価値のお話が出ましたけど、野菜で付加価値をどうやったらつけれるかという、糖度を数値化できると面白いかなと思っています。糖度で何パーセント以上だったらいくら、という風な感じで、せっかく道の駅で置かせていただいているんで、そこで少しでもアピールできる場所があればと考えています。

でも、まずはちゃんとしたネギを作ってから、その付加価値をつけるっていう動きには行こうかなと思っています。

○松川さん 同じネギ農家ですが、うちはもうずっと父親がやっていたものを継承したので、自分の独自のやり方を変えてこうと思って、今いろんなことを調べたり、情報収集をしたりして動いています。

今後としては、無農薬は絶対無理なんで、有機野菜でいかにどこまで、みんなに認めてもらえるようなものを作っていくかが今の課題です。そのために土壌を変えて、糠をまいたり微生物が増えるような

環境づくりをしています。化成肥料を使わなくても、これぐらい良いものになるんだよっていうのもっと知らせていきたいです。

今、うちの上の子どもが、「農業楽しそうだよね」とか言ってくれているし、近所にも農業したいと言って、農業系の高校に通おうと考えている子たちもいます。農業を楽しく見せられて、しっかりちゃんと周りも応援もしてくれるような環境を作れたらなと、日々考えて取り組んでいます。

○水上市長 吉田さん、松川さんに話を聞いて、1つはDX化・機械化をしたいということ、もう一つはいわゆる有機栽培のような話があったんだけど、生産者として黒瀬さんはどう思いますか。

○黒瀬さん 私も就農する時に、勝山市の補助金も使わせていただきながら機械を導入しました。私は基本的に一人で農業をしているので、全部一人で栽培して一人で出荷をする中で、効率化というのはとても考えています。

ハウスの作業でも、少しでも楽にしたいというところで、スマート農業も本当はやりたいけれど、やっぱり費用面的なところもあるし、使いこなせるのかっていうところで、私達はまだまだ新規就農という立場なのでハードルが高いんですね。今後やっていきたいという思いはとてもあるんですけど、まずは今自分の栽培しているものを確実に、納得のいける品質のものを常に出し続けられるような、技術をまず確立したいという思いでやっています。

○丸山さん そうですね。私自身も、作っているのは里芋ですが、里芋だと植える時は機械化できるけど取り上げてからは、なかなか機械化できません。少しずつ手伝いを入れて、今年からちょっと人員も増やそうかなと動いてる形です。

○水上市長 里芋は結構重労働ですよ。重たいし、後処理もかかるし。

○丸山さん はい。今年から、収穫で取るグループと分けるグループに分けて作業するようにしています。選別は、ある程度年配の方でもできるので、掘り上げとかは若い人にやってもらっています。

○小林さん 生産者としては、正直お米はみんな作ってるものなので、勝山や大野で売ろうと思った時に、本当に付加価値一つないと売れないっていうのはあります。道の駅で出していた時も、なかなか買ってもらえないという現状が続いていたので、とりあえず今年、米の国際大会があったので出品してみました。金賞とか特別賞はもらえなかったんですけど、一応ある一定のプレミアムライセンスみたいなところの点数は取れたので、まあ一つクリアできたかなっていうのはありました。

あとは基本的に、オンラインで販売して、県外の方がちょこちょこ買ってくれているので、やっぱり続けていけないといけなかっていうふうに思っています。

○高橋さん うちのハウスはいわゆるスマート園芸施設で、環境制御がついてるハウスが3つあるんですけども、先ほど黒瀬さんがおっしゃったように使いこなせてないです。まだまだ使える余地があるというか、本当に機械って何でもできるので、でも、私自身の経験で言えば、農業ってかなり感覚的なと

ころがあって、そこはまだ機械に任せられない部分があります。ただ、勝山市にこうやってハウスを構えて、長く続けていこうと思った時に、20年後や30年後に、同じ味を作ってもらわないといけないので、その時にこのスマート園芸施設でデータ化して、毎日の灌水量や湿度、温度など、いろんな数字をデータ化して、ベリ果としてのイチゴは一定の味で作れるようにしたいなっていうのは、今後考えています。

有機農業については、うちも減農薬、減化学肥料っていうのを目指してまして、今有機の肥料を使っていたりとか、微生物を入れたりとかっていうのもやっています。

今年初めて腐葉土を作ってみてるんですね。イチゴ栽培では、いらない葉っぱなど、生ゴミみたいなものがたくさん出るので、それを再利用して作っています。今じゃSDGsって言えばお客さん寄ってくるので。無農薬はやっぱり難しいんですけど、やっぱり減農薬が好きな人は好きです。どれだけ高くても買う人は買います。それが一般者向けに販売してるうちの利点になるんですけど、自分で価格を決めて、こだわりのものを作って自分が納得できれば、この金額をつけてもいいって思えるので、そうやって付加価値もつけて味をキープして勝山市で長く続けていける農家になりたいです。

○水上市長 高橋さんは初めて会った時は、研究者として紹介されました。みんなDINOFARMARSとして活動をしていくのであれば、農業系だけではない化学系の研究者の高橋さんからいろいろ話を聞いて、活用していくといいんじゃないかなと思います。

また、国とか県のいろんな補助金もありますが、私たちが米とか農地を整備するようなことは慣れてるんだけど、米以外のノウハウはほとんどないっていうのが現状なんです。そういった中でどういったことをこの行政に期待するのか、本当はこんなことやってほしいとか、困ってる事がないのかなというのを聞きたいと思います。

○松川さん 難しいと思うんですけど、補助金に限らず安定した支援をしてほしいです。勝山はもう3年連続ぐらい水害が続いていて、うちも結構被害があって、どうしようかなということがありました。機械は直せても、作物がそこにあるから、いずれ直ると言われて、保険が使えないことがあるんですね。それをどうにかしてほしいなって思います。

ある一定の大きい農家さんだけをバックアップしますよじゃなくて、今からチャレンジする人たち、今後農業をやりたいと思っている人とか周りに結構いるんで、そういう人たちが将来的にもやっていきたいなって、「農業もありやんけ」って思えるような環境にしてほしいです。せっかくの勝山なんで、勝山やったら結構いろんな作物をやれると思うんです。だからそこにもっと着目してほしい。今、個人でやってる農家さんにもっと目向けて、情報収集とかその現状を知って、支援するよ、応援してあげるよっていうのを、もうちょっと言ってくれと嬉しいですよ。

○水上市長 一度被害で大ダメージを受けると、それを復旧もしなきゃならないし、その年の収入が消えてしまうし、そういったもので農業に対するモチベーションの維持ができなくなるんじゃないかということも心配だし、やっぱりそういったことをやる気のある若い人を支援してほしいとそういったことも含めてということですね。分かりました。

○黒瀬さん 私も昨年、猛暑でトマトの実がならなくて、「トマトの価格は高くても出せない」と新聞にも載

ってましたけど、本当にその通りで、そういった部分の支援っていうのも、やっぱり異常気象が毎年のようにあるっていう中で、あるととても助かります。

あとは、勝山の新しい特産物を作っていきたいなって個人的にすごくいろいろ考えています。例えばナスとか里芋にしても大野でもやっています。奥越ではすごく特産だけど、勝山ならではっていうのは少ないと感じています。例えば、若猪野メロンとかはあると思うんですけど、もっとこう福井県内にもないようなものもできるんじゃないかなと私はすごく思っています。勝山の土の質とかもすごくいいと思うし、そういったものを DINO FARMARS のメンバーの中でも一緒にやっていきたいし、そういったものに対して、市の方もバックアップや何かしら支援していただけると嬉しいなと思います。

○水上市長 勝山ならではの品種については、杉山かぶらや妙金ナス、北市水菜とか今も残っているものはあるけれど、例えば勝山の里芋は5種類ぐらいあったものが今は勝山だけの固定の品種はほとんどなくなってしまいました。昔は勝山にそばの品種もありました。農協が悪いというわけじゃなくて、大量生産の形の中で消えてってしまったところもあります。そういったものは大事だかっていうふうには自分も思います。

今、野向でエゴマを一生懸命栽培していて、今年から市外の人にもっと作って欲しいと、栽培の説明会を2月16日にやると聞きました。面白い取り組みなのかなと思っています。他にもどういったものがあるのか研究していくといいかなと思います。

○小林さん 正直、書類とか大っ嫌いで、補助金をもらったことがありません。自分でなんとかしてやろうっていう思いが強いので、そういうのができてなかったんですけど、頑張るんで見ててください。何かあったら助けてください。

○水上市長 よく見えます。昔から結構、ずっと見てるよ。書類の作成が面倒くさいっていうのは、行政の方でもバックアップできるようにみんなと話します。国や県なんかの申請事務をしっかりとバックアップするような体制を取りたいので、自分でやるって言うのもめっちゃくちゃいいんだけど、やっぱり利用できるものは利用した方がいいかもしれません。

○滝本さん 課題について家族会議をしてきたので紙を見ながら言わせていただきます。

4点ありまして、1点目は、毎年毎年水不足が深刻化していることです。うちの田んぼでも水が来ないので溜池の水を使って流しているんですが、どうも間に合わなくなっています。平泉寺なので女神川から水を引いたらダメなのかという話が家族で出ましたが、祖父がそれは怒られるから絶対にダメだと言うんです。川からも水が引けないし水はないので苦労しました。設備を個人で整備するのは難しいので、市や県や国でそういった支援をしていただきたいです。

2点目は、特に20代30代の就農者へ優遇して欲しいなって思っています。先ほども書類の話がありました。助成金の書類も書いたことがないと、まずどこから手を付けたらいいのかもわからない。そもそもそれを受けられるのか、そういった情報もなかなか難しいです。今よりも簡単に取やすい助成金があったら手を挙げやすいなと思います。それから若い人はアイデアをたくさん持っていると思うので、そういうアイデアにお金を出してほしいと思います。広告費だけでも結構経費がかかるので、

勝山をアピールするとともに若い農業者に光を当てた PR をしていただけたら嬉しいです。注目されることでやる気につながります。

3点目は、認定農業者への支援が手厚いような気がしていて、個人農家にもう少し目を向けていただけたらなと思っております。

4点目は、勝山市独自で県外の人をたくさん呼べる大会を開催してほしいと思っています。今はスポーツブームだと思っていて、私自身もロードレースとかマラソンとかやっております、そういったイベントがあると県外の方からも人がどんどん来るんですね。なので、ロードレースだと道路の整備が必要だったり、登山だと登山道の整備が必要になってきますが、そういったことをすることによって街が活性化するのかなと思います。スポーツと食は欠かせないので、だからこそ農業の方にも目が行くと思っております。そうやって地域産の食の提供ができたりとか、そういうことで勝山を訪れる人が増えることで移住者も期待できるんじゃないかなと思います。

○水上市長 特に今年の夏は水不足がひどかった。それでも実は全国的に見ると福井は米の作柄がまだ良かったようです。新潟から東北、北海道にかけては本当に絶望的なほど作柄も悪かったと聞きました。自然の循環の中で、そういったこともあるのは仕方のないことかなと思っても、これが常態化するのではと懸念しています。今雪が少ないですが、この状態が必ずしも来年の米作りや農業にとっていい状況かっていうと、本当は違うと思います。やっぱりもう少し山に雪がないと、来年の夏、特に米が水を欲しい時には不足する可能性が高い。それを懸念しています。今年比較的水不足の被害が少なかったのは、先に大雨の被害が出て、あちこちの水路がいたんだ関係で、早いうちから大型ポンプを導入しました。水の少ないところで全部設置して、水不足用のポンプじゃなくて水路が壊れたことから水揚げ用の用水用のポンプだったのですが、結果的に水用水まで上げることができました。

女神川の話は、水利権っていうのはなかなか難しいです。例えば勝山市でも、九頭竜川から水を取る量は厳しく決められてしまっているし、所々の用水で取れるところ、取れないところがあります。平泉寺については、女神川の水利権は実は下手の集落の方が持っていて、行政が介入できない問題にあります。集落間で話をさせていただく他ありません。滝本さんのおじいちゃんが言うのは当たっています。

勝山市のお米が美味しいとかって言われるのは、寒暖差が要因だとも言われています。その寒暖差を利用したような品種の宣伝みたいなのは非常にあると思います。アピールみたいなことはやっていきたいと思います。

大きな農業者の人に支援が集中してるんじゃないかっていうのは、米のことが頭にあるんだと思います。米の場合は、圃場を整備して生産をして機械を入れて作る必要があります。行政支援は作り上げるところまでの支援になっていて、高くものを売るかではなく、いかに品質の良いものを大量に安価に作るかっていうところへ集中しています。それが大規模化ってことをずっと続けてきて、認定農業者それから法人による米作りというところに来ています。

皆さんがやっているような、いわゆる米以外の農業っていうのは、観光を一つの基軸にしながらやっていかないと、大量生産で安いものを作るところに勝てません。農業をする若者への優遇っていうのは頑張ります。何か考えていきます。

○滝本さん やりたいという気持ちがあっても、お金がちゃんと手にできるまでに心が折れちゃうっていう

場合が多いと思います。現金の収入は期間が集中しています。例えばお米は秋に、それ以外は少しといったように。でも月々の支払いというのはやっぱりあるので、自分勝手かもしれないのはもう承知なんですけど、そういう部分での支援というものがあつたら嬉しいです。

○水上市長 たしかに農業の場合は、月々の給料という形じゃないので、それぞれが工夫しなければいけないところもあるけど、みんなで考えて冬を乗り切る手立てが必要だと思います。また相談しましょう。

イベントについても分かりました。これも観光の類とちょっと似てるかもしれないんですけど、やはり勝山市で米以外のものでも何とか生きていこうと思うと、市内での消費だけではきっとどこかで苦しくなってしまいます。だからそういったものもやりつつ、B to B と B to C を組み合わせる。それから、今後の観光振興の中でどういうポジションかを考えるということは大事だと思います。

○吉田さん まず、天候っていうところでは、ネギは結構後々回復してくるのでそんなに被害自体は少なかったです。ネギの収入は秋冬に集中していますが、夏に大雨が降るとネギが腐ります。そうなったら冬の収入がなくなってたよねってところで、やはり NOSAI の人が見に来た時には大丈夫だけど、じゃあ後々駄目になったとかそういったところもあるので、そこはちょっと定期的に確認をしに来ていただけたらなっていうのは思います。

書類のことにしても、僕もすごい面倒くさいですよ。僕は「じゃあ行かなくて、わからなくて教えてください」と言って教えてもらってます。だから始める人に対しても、補助金はあるけど書類が面倒くさいって方は絶対いらっしゃると思うんですね。じゃあそれを「一緒に書かなくてちょっと、何日に来てください」みたいなところを言っていたら、新規就農者が入りやすく、補助金も使いやすくなるかなっていうところがあります。

僕が一番伝えたいのは、肥料がめちゃくちゃ高くなっていて、僕がその農業を始めた時に化成肥料の元肥で一袋 4000 円だったのが今 7000 円まで上がってるっていう状態です。もちろん高騰の補助金っていうのはいただけてるんですけども、肥料にあまりお金をかけたくないっていうところもあるんですよ。じゃあ半分にしたら初期生育が悪くなって、元々収穫しようと思ってた時期に収穫できないことになる。補助金の割合をもうちょっと上げていただくと、当たり前規定数量を当たり前に使えます。例えば一発目に高い肥料を入れて、次にちょっと安めの有機肥料を入れ続けるといったこともできます。そうすると肥料の効果がどんどん効いていくので。

○吉田さん あと、多分新規就農者が一番手間取るところは、一発目の苗だと思うんです。さあ始めましょうとなったときに、1 年目、苗を買うのが僕もちょっと苦しかったところです。苗を作っている期間って結構長くて、それを植えて使いますが、でもおそらく新規就農者は、はじめに苗を買うと思うんですよ。僕も当たり前のように JA さんから購入したら、苗だけで 80 万近くか飛んでちゃうんで、今自分で作ってやっと 20 万ぐらいで抑えられるかなっていうところなんです。でもその 60 万の差っていうのはすごく大きいんです。新規就農者さんにはそこら辺の補助っていうところもちょっと視野に入れていただけると増えていくのかなと思います。

○松川さん 新規就労をやろうと思って補助金の手続きするけど、「確実に通るわけじゃないからね」と書

類を書いても釘を刺されるし、自分がそうだったんですけど、始めた期間からもう5年過ぎてしまっているからもう新規就労者じゃないよねって言われて、新規就労になりませんでしたとかというのもあったりもするんで、その辺もちょっと改善してほしいなっていうのがあります。

○水上市長 現状的には補助金の話を、今それぞれ理由があつたり、国の裏が入つたりするので、ここでわかりましたとは言いきれませんが、今担当も一緒に聞いてるんで持って帰ります。

それからの書類のことについては、何かの集まりの時に相談をするような機会を設けるといったのもありかもしれません。

たしかに肥料が高くなったっていうのは、みんながみんな知らないですからね。30~40年前には銀行の利息も3% 4%ぐらいでは低いと言われていて、8%ぐらいの福利が出て当たり前の時代でした。それが、この30年ほど全く給料も上がらないし、利息もつかない。その代わり、ラーメン代も上がらなければ肥料代も上がらないっていう状態が続いていたので、昨今の物価高騰には皆ショックを受けていると思います。

去年から今年にかけて、値上がりに対する補填をしてるけどこれは続きません。それはなぜかという、今補填してる理由っていうのは、給料とか収入が上がらないのに、初期投資だとか油代だとかそういったものが先行して上がっちゃってるので、それに対する対応策になっています。今後は、物を高く売れるような付加価値をつけるようなことを、中期的にはやっていかないといけないと思います。値上がりが続いて、補填を毎年し続けるかという、そうではないと思っています。毎年利息も上がって物も高くなるっていう風なパターンの中で、どうやって商いをやっていくかってことも考えて行かなくてはならないと思います。そこはしっかりと支えたいと思いつつも、やっぱり考え方を少し変えて、お互いに変えていかなきゃならないかなと思ってます。

新規就労の基準の見直しなどについては、今簡単には言えないけど、言ってる意味は分かったので先ほどの件も含めて、また相談してみます。

○高橋さん 新規就農者のお話なんですけど、私も外から来た人間になります。勝山市について、まだ全然わからないんですけど、農業の現状っていうので見ると、多分どこもそうだと思うんですけど、高齢化とあと耕作放棄地の増加だと思うんですね。高齢化で後継者問題も付属していると思います。こちらで新規就農させてもらったんですけど、結構いい制度っていくつかあったんですよ。就農者向けの制度をPRして、Iターン・Uターン者を狙って、今後新規就農者を増やしたいなって私たちも思っています。新しい仲間を増やしたいとか農業で盛り上げたいと思うので、それを目につくよう、もっとPRしたい、そういう新規就農を増やすっていうPRにぜひ私たちを使ってもらえたらなって思います。そういう団体で行政とはうまくやっていけたらいいなって思っています。

○水上市長 じゃあ、最後のは考えます。今いろいろ出た中で、すぐに取りかかれなかったけど、それについては、DINOFARMARSのPR、支援については考えて行きたいと思います。

○水上市長 3月16日に福井県に北陸新幹線がやってきます。それから、令和8年の3月4日には中部縦貫自動車道が完全に繋がって岐阜と繋がります。そうすると、岐阜や東海・中京から自動車で

来る人はもっと増えると思います。新幹線で来る人には、いろんな農作物を持って帰ってもらうことは少ないと本当は思っていて、でも自動車でくる人にはその辺の事情は変わってくると思う。だから私が BtoB と BtoC の話をしたのはそういうのもあって、やっぱり、勝山市でいろんなことやっていけばいいんだけど、一つの生き残りをしていく道として、自動車で中京・関西・関東地方からもっと人が来るようになった時に、その人たちにどうやって物を売るかということを考えていかないといけないと思います。

恐竜博物館では、驚くほど 1 日に売れていきます。どういう風に今、農業が付加価値を上げて、最終消費者に直接届けるということをやらないと、価格決定権がなかなか出てこない。そういったものが簡単ではないということはよく分かっているけど、みんながよく考えていくといいと思います。

下仁田のネギはとても甘いついでいうことでブランド化されているけれど、関東の方のネギは僕らの思うようなと違うんだよね。白いとこが全体の 8 割ぐらい占めて、上の方に緑の葉っぱがちょっとあるような形になっています。僕らが思ってる長ネギと違いますよね。東京や関東周辺の食べるネギは別物だから、そういったこともいろいろ研究をした方がいいんじゃないかなと思います。

観光に対しても、やっぱり道の駅をめがけてくる観光客をターゲットにするというのは一つの方法だと思います。最終消費者と繋がるまで考えていく必要があります。農業の人は一生懸命やるんだけど、売ることはどこかに卸すだけの一本でやってしまうと、価格決定権が出ないから、材料費が値上がりしても、お金は 1 年ぐらい遅れてしか上がらないっていう、市内の繊維会社が陥った、苦しいところへなってしまう。繊維がそういった力を発揮できなかったところもあったからね。

高橋さんなんか頼りにするといいですよ。ただ、高橋さんにも弱みがあって、やっぱりこの中でただ一人勝山の生まれじゃないから、そういう意味ではみんなみたいに親の代から農業をやっていて、最初から農地と山がくっついたところで生きている人間と違って、やっぱりよそから来てここでやってるって言うそういう弱みがあります。お互いにそういったところをカバーし合いながらやっていくといいと思います。ぜひそういう意味では、DINOFARMARS に対する支援を、やっていきたいと思いますから頑張ってください。

○松川さん 学校教育に食育をもっと広げれば、農家やりたい子どもは増えると思います。今、学校に給食を作ったりとかする場所が減ってきてるっていう話も聞いているので、食育を授業に入れて、DINOFARMARS の野菜とかも給食で使ったりとかしてほしいです。学校って畑があるところが結構あるんで、その畑で作った野菜を子どもたちが収穫して、みんなで食べてといったこともできます。土いじりは本当に子どもの活性化にもつながるんで、そういうのも刷り込みじゃないけど、やってくれたらうれしいです。

○水上市長 食育の担当もありますので、考えます。学校給食については、今全て小学校ではの自校式の給食をやってますし、新しい中学校ができれば、自校式の給食に移行しようと思って今準備しています。米については、今日話をしながら、できるだけ地元の有機米をみんなに提供できるような方法を考えているし、例えば 鮎だとかそういう取り組みは一部やってるんで、他の野菜についても皆さんと協力しながら何かできないか一度考えてみたい、と思います。

水の問題は深刻な問題だと思ってます。状況について考えていきます。

イベントも何か考えます。あと、イベントでキッチンカーは気軽にできるけど、キッチンカー以外でもみんなで協力して、一緒に軽トラかなんかで出すようなところも結構あるので、そんなの面白いんじゃないかなと思います。収益がどうなるかということはあるけどやってほしいと思います。

また エゴマの話なんかもありましたし、いろんな野菜についていろんなアイデアがないか、どっかに面白い話がないかっていうのはちょっと気をつけて聞いていきたいと思います。メンバーみんなでやってもいいかもしれません。

自分は昔からネギが苦手だったんだけど、ラーメンとかそばには山ほど入れる。薬味としてはあれはすごいないつも思っています。どんなものも料理の仕方みたいなものもあるから、使い方によっては本当にすごいなと思います。

トマトなんかも高橋さんに相談してみてください。昔ハート型のこれ本当にトマトっていうような甘いトマトを食べたことがあります。イチゴより甘いよね。いろんなもの組み合わせでアピールすると良いと思います。

一作物だけやる危険性っていうのは、常に多分実感してると思うんだけど、年一本で行ってめちゃくちゃ収益が上がるかもしれないけど、全滅すると1年収益なくなります。だからそういうのは組み合わせで、複数の職業の組み合わせもあれば、農作物の組み合わせっていうのも当然あると思うから、そう言ったことも考えて行くといいです。

よくこういう自然農法でできたものを求めるっていう人は結構います。北谷のヒエなんか何百キロでも買いますって言っているところがあります。でも10キロ20キロしか生産できないので、大手に卸そうと思うと、ものすごい量を求められるので対応できないといったこともあるようです。えごまオイルなんかも一緒です。要は量が作れないから、大きいところに卸せないっていうのもいっぱいあります。

求める人の一つの傾向として、有機あるいはヴィーガン、そういったことはとても強く言われています。ヴィーガンって何？みたいな感じだったけど、実際にはものすごく多くの人がヴィーガンのことを言ってきていて、だからみんな仕事の中では活かせるのかなと思ってます。どうか頑張ってください。お時間をいただいて 本当にありがとうございました。